



山 鐘

～第1回「山の日」記念全国大会 登攀の記録～

"SANSYOU"～The Record-book of the Inaugural National Ceremony for Mountain Day～



山 鐘

～第1回「山の日」記念全国大会 登攀の記録～

“SANSYOU”～The Record-book of The Inaugural National Ceremony for Mountain Day～



山 鐘

～第1回「山の日」記念全国大会 登攀の記録～

“SANSYOU”～The Record-book of The Inaugural National Ceremony for Mountain Day～





山は好き
山は何回か
今年も
登りたい

今年
山に登り
たい

近い
山を
登りたい

山を
登りたい
今年も

くじら
大好キ
#上
千春

山に登
りたい
今年も

山に
行きたい
今年も

SRI LANKA

山に登
りたい
今年も



菅谷 昭
松本市長

上高地から 山の未来に向けて

記念すべき第1回「山の日」記念全国大会を長野県松本市において開催し、この度その集大成とも言うべき本誌「山鐘 ～第1回『山の日』記念全国大会 登攀の記録～」を刊行できますことは、誠に大きな喜びであり光栄に存じております。大会前後1年間余りの取り組みを収録し、大会に込めた思いを伝える「記録誌」として、多彩な式典行事等の様子を次代に語り継ぐ「歴史書」として、また初めての「山の日」を国内外に広く発信する「広報誌」として、皆様方におかれましても幅広くご活用いただければ幸甚に存じます。

2日間に渡り上高地及び松本市街地で開催した各行事には、延べ17,360人の方々をご来場くださいました。

8月11日の「山の日」には上高地会場において、皇太子同妃両殿下並びに愛子内親王殿下のご臨席を仰ぎ、各国大使館関係者の皆様をお招きして、晴れ渡る空のもと記念式典を厳粛の中にも、盛会裏に挙行することができました。皇太子殿下からは、「山の日」制定に込められた多くの方々の思いや、次代を担う子供たちに寄り添ったおことばを頂戴し、大変深い感銘を覚えた次第でございます。

山への感謝の思いを表現した多彩なプログラムのもとに盛大に開催した祝祭式典や、「山岳ユニバーサルツーリズムの推進」をテーマとした「山の日」制定記念国際フォーラム、上高地・松本城公園両会場における信州四方山祭りなど、大会期間中の全ての行事、また1年を通して県内外において行われた各関連行事を通じ、幅広い世代にわたる多くの方々にとって「山の日」が身近なものとなったことは誠に大きな成果であり、大会開催の意義深さを改めて痛感しております。

世界初の山を対象とした国民の祝日である「山の日」。前例のない大会を作りあげる過程は、まさに高く険しい未踏の山に挑戦するかのごとく、困難を伴いながらも、皆様からのあたたかなご支援、ご指導のもと一步一步進んで参りました。今後は栄えある第1回大会開催地としての誇りと責任を胸に、山を慈しみ、山を労わり、山を活かす取り組みを進めるべく、これまで以上に努力を重ねて参る所存でございます。

大会開催に当たりご尽力をいただいた関係者の皆様、「山の日」に関心を寄せ、大会を応援して下さった国内外の皆様、併せて本誌の発刊にご協力をいただいた全ての皆様に改めて厚く御礼を申しあげ、私たちに心豊かな暮らしを授けてくれる山を次代へ引き継いでいく決意を新たに、刊行に当たってのご挨拶といたします。



阿部 守一
長野県知事

山の価値や魅力を信州から世界へ

夏山シーズン真っ盛りの爽やかな風薫る信州にて、皇太子同妃両殿下並びに愛子内親王殿下のご臨席を仰ぎ、8月10日・11日の2日間にわたり、新たな国民の祝日「山の日」を記念した全国大会を盛大に開催し、県内外から約1万7千人の方々のご参加を得て、成功裏に終えることができました。

長野県は、我が国有数の「山岳県」です。全国に23座ある3千メートル級の山々のうち、奥穂高岳、槍ヶ岳など北アルプスの9座を含む、実に15座が本県にあり、「日本の屋根」とも称されております。

こうした山々を水源とする豊富な水は、多くの生き物たちの命を育むとともに、本県はもとより下流域の都市部へもその恩恵をもたらしています。

そのような中、本大会においては、「山と人」との関わり方を見つめ直し、次代を担う子どもたちと一緒に「山の未来」を創造する第一歩とすることなどを理念として、山に関する様々な行事を開催しました。

8月10日には、子どもや高齢者や外国人、障がいのある方々をはじめ、誰もが山に親しむことができる山岳ユニバーサルツーリズムをテーマとした「山の日制定記念国際フォーラム」などを松本市内で開催しました。翌11日午前には、上高地において記念式典を開催し、抜けるような青空の下、セイジオザワ松本フェスティバルプラスアンサンプルの皆様による「山の日」制定を記念した演奏や山への想いを伝えるメッセージなどが披露されました。

また、午後には、まつもと市民芸術館で祝祭式典を開催し、二山治雄氏と白鳥バレエ学園の皆様による「山の日」を祝う演舞や山の恩恵とともに暮らす方々による山に関する感謝のスピーチなどが行われました。

これにより、長野県に暮らす私たちだけではなく、信州の山にお越しいただく皆様にも、国土保全や水源かん養、地球温暖化防止など多面的機能を有する山の価値や観光資源としての魅力を全国に向け発信することができたものと考えております。

この大会を契機に、長野県が将来にわたり世界中の人々から愛される山岳県となるよう、山の保全や活用に引き続き全力で取り組むとともに、国内外の皆様にも「山なら信州」、「アウトドアを楽しむなら信州」と言っていただけるよう、「山岳高原」を活かした世界水準の滞在型観光地づくりをさらに一層進めてまいります。

結びに、本大会の開催に当たり、大変なご尽力を賜りました、谷垣禎一会長をはじめ全国山の日協議会の皆様、衛藤征士郎会長はじめ「山の日」議員連盟の国会議員の皆様、山本公一環境大臣はじめ関係省庁の皆様、地元松本市をはじめ、ご協力いただいた市町村、企業・団体の皆様などすべての皆様にご心からお礼を申し上げ、発刊のことばといたします。

山鐘

「山鐘」とは

「鐘」は、古くから登山者にとって山小屋の在り処を知らせる安らぎのものであり、明日への意欲をかきたてる力の源でもありました。今ここに、山の日の誕生を迎え、記念となる全国大会を開催するにあたり、その開幕と閉幕に鐘を鳴らし、改めて山や山に関わる人々に思いを巡らし、山への感謝の気持ちを持ちたいと願い、これを「山鐘（さんしょう）」と名付けました。

「山鐘」に込める思い

- 第1山鐘 山の日の誕生を祝う思い
- 第2山鐘 山に親しむ機会を得ることへの思い
- 第3山鐘 山、その恩恵に感謝する思い
- 第4山鐘 山を慈しみ活かし活かす思い
- 第5山鐘 水や木など山の恵みを大切にすする思い
- 第6山鐘 花や鳥、蝶など山に棲む生き物たちを大切にすする思い
- 第7山鐘 山を愛する人への思い
- 第8山鐘 山で亡くなられた方々への思い
- 第9山鐘 来年の大会の成功への思い
- 第10山鐘 大会に参加された全ての方の幸せへの思い
- 第11山鐘 明るく豊かな山の未来を子供たちに託す思い

「山鐘」する

8山鐘

大会・式典の開幕を告げる 第1山鐘から第8山鐘まで

11山鐘

大会・式典の閉幕を告げる 第1山鐘から第11山鐘まで



山本 公一
環境大臣

青天の上高地で「山の日」の誕生に臨んで

そびえ立つ穂高連峰の上に、どこまでも美しく晴れ渡る盛夏の空。

平成28年8月11日に、16番目の「国民の祝日」として誕生した「山の日」を祝い、「神の降り立つ地」とも称される日本屈指の山岳景勝地「上高地」で、栄えある第1回「山の日」記念全国大会が開催されました。

「国民の祝日」は、自由と平和を求めてやまない日本国民が、美しい風習を育てつつ、よりよき社会、より豊かな生活を築きあげるために、国民こぞって祝い、感謝し、そして記念する日とされています。

「山の日」の誕生を、皇太子殿下同妃殿下並びに愛子内親王殿下の御臨席を仰ぎ、会場満員の列席者の皆様方とともに御祝いできたことは、私にとっても非常に印象深く、慶び深い日となりました。全国大会開催に当たり、御尽力された全ての皆様方に、心より御礼を申し上げます。

我々日本国民の恵み豊かな生活、日々を彩る美しい風習、郷愁の心、その全ての拠りどころとなるのが国土です。そして、この国土の7割は「山」が成しています。

山の豊かな森は、清浄な空気を生み出します。また山は、空からの恵みの水を一身に浴びてこれを涵養し、この水が川から海へと流れる中で、繊細かつ多様な自然環境と美しい景観、そしてこの中に息づく豊かな生態系を生み出し、これを育んできました。

自然とともに暮らす日本人は、古くからこの命の循環を肌で感じ、山に畏敬の念を抱き、山の恵みに感謝してきました。しかし、現代の社会に暮らす我々は、ともすれば、この感謝の念を忘れがちになっています。「森里川海」の自然の循環の中で、我々の国土は様々な問題を抱えています。気候変動の影響も、既に世界で顕在化しつつあります。こうした問題の根源は、何よりも、自然とのつながりを忘れてしまった、人々の心にあると思えてなりません。

「山の日」の誕生は、またとない機会です。

毎年の「山の日」には、全ての国民が、自らの暮らしが自然の恵みによって支えられていることに、今一度心を寄せ、次の世代にこの山紫水明の自然を引き継ぐために何ができるのか、それぞれが考え、行動する日となることを、切に祈念いたします。



谷垣 禎一

一般財団法人全国山の日協議会 会長
衆議院議員

第1回「山の日」記念全国大会が、長野県松本市上高地および松本市内において開催されました。

当日は、上高地に皇太子同妃両殿下並びに愛子内親王殿下のご臨席を仰ぎ、お言葉を賜りましたこと、各会場で「山の日」の周知活動が盛大に行われましたことは、関係者および参集者のみなさまのご尽力の賜物と、心よりお礼を申し上げます。

また、三殿下が上高地での散策を楽しまれたことを伺いました。山の日意義の一つをご体現なされたことを、誠に嬉しく存じ上げます。

「山の日」は世界でも珍しい、国土としての「山」を対象とする祝日です。祝日法にも記されておりますとおり、この祝日の制定の趣旨は「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」です。全国山の日協議会では、この趣旨を具現化するための公益事業として、「児童、青少年の健全な育成に寄与する事業」、「山と自然の事故・災害の防止を目的とする国土の利用、整備の事業」、「山と自然を利用して、地域社会の健全な発展に寄与する事業」、「豊かな森林と水源の保全に寄与する事業」という4つを掲げております。

国民の祝日「山の日」が施行されて、初めての「山の日」記念全国大会では、課題のひとつとして、「たくましい子どもたちの育成」と同義である「次世代の育成」を取り上げた大会でもありました。

大会のシンボルマークでは、「親」「子」と「花」「鳥」「川」「蝶」「木」ら自然のモチーフが有機的に関連し合い、子どもたちが「人」と「日本の山と自然の未来」を次世代へと引き継ぐことを表現しているようです。

私も、これらの歩みが、将来へと引き継がれることを願ってやみません。

第2回「山の日」記念全国大会は、栃木県那須町で開催をしていただけたと伺いました。ご関係者のみなさまへは、この大会が国民の継続的な大会として行われることに、敬意を表させていただきます。

山と自然を舞台として多くの人々をつなげることは、より良い将来の日本社会を約束するものです。これからも全国各地のみなさまに、「山の日」の意義と、たくましい子どもたちの育成をはじめ、多くの課題に向けて、ご一緒に考えていただくことを、心よりお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。



衛藤 征士郎

超党派「山の日」議員連盟 会長
衆議院議員

第1回「山の日」記念全国大会を迎えて

平成28年8月11日、国民の祝日「山の日」施行を祝う記念式典が、上高地に皇太子殿下ご一家をお迎えして挙行された。日本山岳会をはじめとする全国の山岳関係者、自然保護団体、地方自治体など、山を愛する多くの人々と求めてきた「山の日」をついに迎え、感無量の思いで北アルプスを見上げた。

国会においては、山の日制定を長年願ってきた有志議員が声をあげ、議員連盟結成に奔走し、平成25年4月、超党派で110名の議員連盟「山の日制定議員連盟」(会長:衛藤征士郎、幹事長:丸川珠代、事務局長:務台俊介、7党派から副会長、最高顧問:谷垣禎一)の設立となった。「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する日」として、国民の祝日を制定しようという呼びかけに、与野党の垣根を越えて賛同議員が集結した議連である。協議に協議を重ねた上、翌年には国会で「国民の祝日に関する法律の一部を改正する法律(平成26年法律第43号)」を成立させることができた。施行の前年には、私の故郷大分県くじゅう長者原で「山の日制定記念大会」を開催し気運を盛り上げ、いよいよ平成28年、北アルプスの玄関口、上高地で迎えた待望の施行の日である。皇太子殿下が「多くの人が山に親しみ、その恵みに感謝するとともに、美しく豊かな自然を守り、次の世代に引き継いでいくことを心より願います。」と述べられ、地元の子供たちが『山と共に』未来への誓いとして、「山は私たちのたからもの。みんなここで生き、生かされています。きれいな山、自然や文化を守ろう。」と宣言し、国民の祝日たる意義が高らかに揚げられた。「山の日」を国の祝日として位置付けたのは世界中で日本が最初で、海外からも大きな関心が寄せられている。日本人は古来より山に畏敬の念を抱き、自然と共に高い精神性を貫いて来た。日本の誇らしい文化の証としても「山の日」を位置付けたい。新たな施行を記念して、総理大臣官邸と衆議院議長公邸、参議院議長公邸に記念の樹が植樹された。樹々の成長に山の日々の確かな歴史が重ねられることを願う。

私たちは山の恩恵を受けて生かされている。山と共生し、自然への畏敬の念を深めることの大切さ、「山の日」に思い起こしたいものである。「山の日」は、山への感謝に加えて、山を育て、山を守る人たちに感謝する日でもあって欲しい。「ふるさとの山に向いて言うことなし、ふるさとの山は有り難きかな」石川啄木の歌が、心身にしみる。山の大きな愛に包まれ、あるいはふるさとの山を想い、生きることへの感謝と、勇気を膨らませる日として、「山の日」が国民に定着することを願っている。



安藤 宏基

一般財団法人全国山の日協議会 副会長
日清食品ホールディングス株式会社 代表取締役社長・CEO






第1回「山の日」記念全国大会が盛大に執り行われ、国を挙げてお祝いできましたことを心からお慶び申し上げます。

私が理事長を務めています安藤スポーツ・食文化振興財団(略称:安藤百福センター)では、子どもたちの健全な心身の育成のため、陸上競技、自然体験、食文化、発明記念館運営を柱とした事業を行っています。その中で、自然体験の基本はあらゆるフィールドを「歩く」ことであるという考えから、日本ロングトレイル協会と連携し、新たに「ロングトレイル」の普及・振興を進めていますが、「山の日」施行が自然体験やロングトレイルの更なる普及に繋がることを期待しています。

安藤財団では、2010年5月に長野県小諸市に自然体験活動の指導者養成センターを設立しました。ここで、子どもたちを自然の中に導き、自然のすばらしさを伝え、リスクに的確に対処できる「指導者」を多く養成し、「山の日」協議会が行う事業のお手伝いをしてまいります。



目次

	種の花	芽出 —山麓から— ……………001
		山の日制定経過と大会準備
		大会ロゴマークの制作
	耕の稲	草創 —10カ月の挑戦— ……………011
		大会の推進体制
		協賛活動
		広報活動
		式典行事の準備
		招待・輸送・地域対応活動
		大会運営体制の整備
	華の花	登頂 —青き嶺へ— ……………061
		山の日象徴・大会象徴
		式典行事
		記念品
		世界の山々から
		記念行事
	実の葉	結実 —天空の彼方— ……………121
		開催結果総覧
		関連行事
		大会記録写真集
	翔の鳥	孫生 —そして次の山へ— ……………133
		次期開催地の紹介
		山に関する取組